

人文学に、新たな翼を。



九州大学 大学院
人文情報連係学府
学生募集案内
2027



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

メッセージ

人文情報学（デジタル・ヒューマニティーズ）は、人文学とコンピューティングを結び付ける、新しい学問分野です。両者は一見、遠い存在であるかのように感じられますが、実は親和性が高く、相互に参照し合うことで、互いに新たな知見をもたらす可能性を多分に秘めています。

私の専門は日本語学ですが、近年、その方法論は劇的に変化しています。それは「コーパス」と呼ばれる、コンピュータによる処理を前提とした大規模な言語資料の整備が、飛躍的に進んだからです。コーパス言語学の手法は、言語の定量的・体系的な研究を大いに後押しすることになりました。電子資料の発達、人文学のどの分野にも見られるものであり、情報技術の取得によって、新たな人文学研究の発展・展開が大いに期待されます。

一方、情報技術の発達によりもたらされるデータは、それに対してどのような評価を与えるかが重要です。人文学の視座の下で、すなわち、人間と人間が生み出す文化・社会における課題解決を目指す中で、情報データを評価し活用すること、これは情報学に対する人文学からの貢献に他なりません。

九州大学大学院人文情報連係学府は、本年度に完成年度を迎える新しい学府です。これから入学する皆さんが、本学府の歴史を作っていくことになります。新しい学問世界を、我々と一緒に切り拓いていきましょう。

九州大学大学院人文情報連係学府 学府長
青木 博史

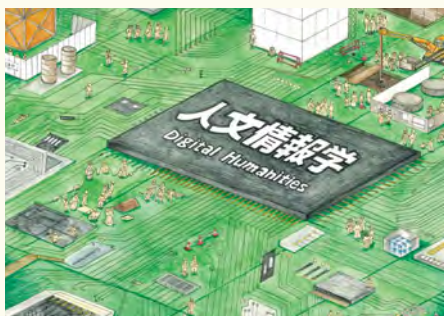
人文情報連係学府の誕生から1年。私たちは今、長い歴史を持つ人文学と急速に進化してきた情報学が共鳴し合う「人文情報学」の最前線に立っています。

人文情報学は文字通り人文学と情報学が融合した領域ですが、私たちが目指すのは単なる資料のデジタル化や効率的な分析ではありません。人文学が培ってきた「価値」や「倫理」というレンズを通して、情報学的手法で人間と社会を評価すること、またそれを支えること、それが私たちの使命です。

本学府では、計算機可読な膨大な資料やデータを情報科学の手法を用いて分析し、これまでの研究では見落とされていた新たな歴史的真相や、文化的な価値を掘り起こす「人文学重視型」と、人文学的な倫理観を基盤に情報の適切な管理や利用の在り方とその仕組みを追究する「情報管理学重視型」の二つを軸に、次代を担う人材を育成します。

知的な冒険心に満ちた皆さんと共に、新たな学問のフロンティアを切り拓けることを心から楽しみにしています。

九州大学大学院人文情報連係学府 副学府長
富浦 洋一



人文情報連係学府とは何を目指すのか

情報技術の急速な発展により、私たちの生き方は大きく変化しています。インターネット経由で様々な情報が瞬時に手に入るようになりました。人のうちの猫の平和な寝姿を見る一方で、人々が迫害にあたり暴力にさらされたりしている場面をほぼリアルタイムで目撃することもあります。研究生活も大いに変化しました。論文をデータベースから検索して即座にダウンロードして読むことができたり、遠い国の図書館にある本や博物館に保管されている貴重な歴史資料のスキャン画像を閲覧することができたりするようになりました。しかし、情報技術の発展によって、私たちは本当に幸せになっているのでしょうか？膨大な情報の波に戸惑い、一度立ち止まってゆっくり考えたい人もいることでしょう。

人文情報連係学府では、立ち止まって問題の根本に遡り、ゆっくり考えてみたいと思います。なぜ意見の合わない人どうしが言い争い、ときには大きな暴力の応酬に発展してしまうのでしょうか？争っている人たちは、事実を同じ事実だと認識したうえで反対の意見を持っているのでしょうか？それとも同じ事実であると合意できていないのでしょうか？インターネットで流れてくる情報は本当に事実なのでしょうか？そもそも、**私たちがある事実を「知る」「知っている」とは、どういうことでしょうか？**画面の向こうにあるテキストやイメージから得られる情報は、どこか現実離れしてふわふわしているように感じます。それらが正しいのか間違っているのか、画面の向こうだと確かめようがありません。**正確な情報を確かめるためには、一次資料にあたることが重要です。**そして今まで積み重ねられてきた議論を丁寧に精査し、整理することも大切です。つまり、人文学が今までずっと行ってきたことが、今までと同じように、あるいはそれ以上に重要になります。

私たちの生活のなくてはならない一部になっているこの情報技術とは一体何者なのか。どのような仕組みで動き、私たちの社会でどのような役割を果たしているのか、果たすことになるのか、あるいは果たすべきなのか。単に技術を便利に使うためではなく、人文学の観点から批判的に精査しなければなりません。そのためには、自分の専門分野を深めると同時に、お互いの専門分野の問題意識や方法論についても議論し合うことが必要です。**人文情報連係学府は、人文学の問題意識をもって情報技術を学び、応用するところです。**みなさんと一緒に学び、議論し、私たちの社会が抱える様々な課題について捉え直し、解決の糸口を見出す場になることを期待しています。

九州大学大学院人文科学研究院 准教授
中川 奈津子



学生のポスター発表



qudh勉強会

何をいかにして学ぶのか

アドミッション・ポリシー

本学位プログラムでは、人文学や情報科学などに学問的基盤があり、特に人文学的な問題意識を持って、人文学と情報科学を高度な次元で融合して人文情報学を推進するとともに、社会の諸課題にも挑戦しようとする意欲を持つ学生を求めます。具体的には、以下のような関心や希望を持つ学生の入学を歓迎します。

- ・人文学が蓄積してきた問題意識や問いに対して、情報科学のアプローチからチャレンジする意欲を持つ者
- ・データ駆動型の学問領域や文書・映像情報の管理方法などに対して、人文学的視点から貢献したいと考えている者
- ・各種企業や官公庁、NPO等の情報ガバナンスにおいて、人文情報学の知識の活用を考えている者

カリキュラム

下記の34単位以上を修得し、かつ修士論文審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

共通基礎科目（8単位）、専門科目（20単位）、実践科目（4単位）、論文指導（2単位）

人文情報連係学府 修士課程

到達目標		修士1年前期	修士1年後期	修士2年前期	修士2年後期
人文情報学の研究を進める上で必須となる基礎的知識・理論を修得し、他の専門分野との高次元融合にスムーズに取り組めるようになる。	共通基礎科目 (8単位)	「人文情報学概論」 「情報管理学概論」 「データサイエンス概論」 「アカデミックプレゼンテーション」			
専門科目での学習を通じて、自らの専門分野の研究を深化させると同時に、他の専門分野への関心も深め、研究の融合に主体的に取り組めるようになる。	専門科目 (20単位)	「人文学専門科目」 「情報科学(情報管理学)専門科目」 「情報科学(データサイエンス)専門科目」			
講義や研究を通じて獲得した人文情報学の知識や視座を、学外の各種機関における実務経験などを通じて、社会実装できるようになる。また異分野、特に理系の人々に自らの研究を説明し、ディスカッションを行うことができるようになる。	実践科目 (4単位)			「インターンシップ」 「データサイエンスプレゼンテーション」	
自らの研究の方向性を定め、異分野融合の研究を行い、レベルの高い修士論文を作成する。	論文指導 (2単位)				「論文指導」 修士論文

指導体制

学生全体の指導は、コーディネーター役の教員が中心となって行います。コーディネーターは、各学生のカリキュラム構成や履修状況等を把握し、各種の相談（指導チームの編成、履修指導、インターンシップ先など）に対応して、入学から修了時まで学生のサポートを担います。

学生の個別の指導は、学生の希望によって構成される指導チーム（主指導教員1名、副指導教員2名以上）が行います。学生は自身の学問的関心に基づき、指導チームと相談しつつ履修計画を策定し、質の高い修士論文の作成につなげていきます。

インターンシップ

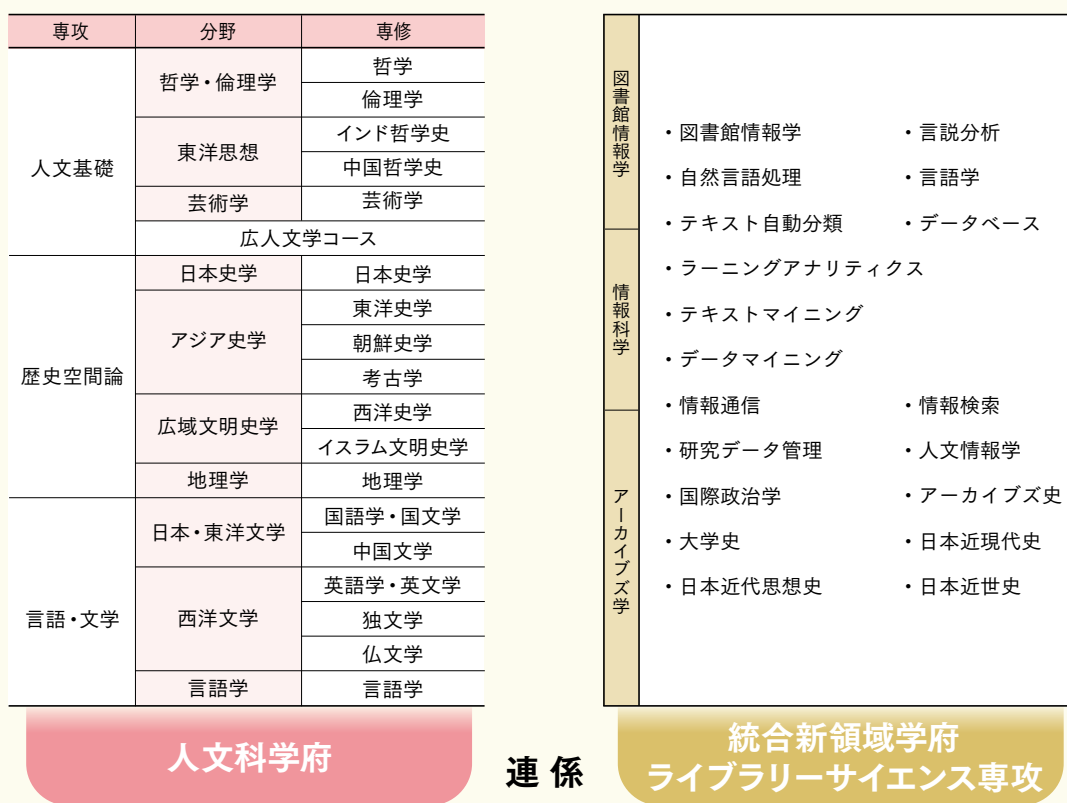
インターンシップは、学生の専門分野に関連する機関や企業で研修を行います。インターンシップ先には、九州大学の大学図書館、国や地方公共団体の文書館、美術館、印刷・出版・デジタル化の企業、大量のデータを扱う企業などがあります。

修了後の進路

九州大学や他大学の博士後期課程への進学や、図書館職員、博物館・美術館学芸員など情報の管理や公開を担う専門職、高等学校等の教員、官公庁や民間企業、NPOの専門職など、幅広い職種への就職が可能です。特に近年、多くの分野でデジタル化やオンライン化など情報ガバナンスに関わる業務が増加しており、本学位プログラムではそれに関わる研究機関や民間企業のニーズに合った技能を身に付けることができます。

幅広い学問領域の連係

接続する人文学・情報科学



人文情報連係学府

協 力

数理・データサイエンス 教育センター

【担当講義】 ・データサイエンス概論 ・データサイエンス発展
・データサイエンスプレゼンテーション

多彩な教授陣

出願方式	専修	専門分野	教員名
人文学重視型	哲学	哲学基礎論	倉田 剛
		西洋哲学史	大西 克智
		現代哲学	葛谷 潤
	倫理学	現代倫理思想	吉原 雅子
	インド哲学史	インド思想史	片岡 啓
	中国哲学史	中国古代中世思想史	南澤 良彦
		中国近世思想史	藤井 倫明
	芸術学	美学、音楽学、映像学	東口 豊
		西洋美術史	伊藤 拓真
	広人文学	日本美術史・建築史、美術・芸術における国際交流	Anton SCHWEIZER アントン・シュヴァイツァー
		日本古代史、思想史	Ellen VAN GOETHEM エレン・ヴァン＝フーテム
		日本の宗教史、仏教学	Caleb CARTER ケイレブ・カーター
		日本近代建築史、都市史、美術史	楊 昱 YANG Yu ヤン・ユー
		日本文学、日本思想史	David WEISS ダーヴィッド・ヴァイス
	日本史学	日本近世史	岩崎 義則
		日本中世史	荒木 和憲
		日本近現代史	国分 航士
		日本古代史	内田 敦士
	東洋史学	中国社会史、東アジア海域史	中島 楽章
	朝鮮史学	朝鮮中近世史、朝鮮半島の環境史	森平 雅彦
		朝鮮近代史	小野 容照
	考古学	日本考古学	辻田 淳一郎
		東アジア考古学	鈴木 舞
	西洋史学	スペイン中世史	足立 孝
		ドイツ現代史	今井 宏昌
	イスラム文明史学	アラブ史、初期イスラム史	清水 和裕
		オスマン帝国史	小笠原 弘幸
	地理学	人文地理学、都市研究	遠城 明雄
		人文地理学、アフリカ地域研究	伊藤 千尋
	国語学・国文学	近世文学、思想史	川平 敏文
		日本語文法史	青木 博史
		中古文学	岡田 貴憲
		古代語文法	古川 大悟
	中国文学	中国古典文学	静永 健

出願方式	専修	専門分野	教員名
人文学重視型	英語学・英文学	イギリス文学、特にイギリス小説	鵜飼 信光
		アメリカ文学	高野 泰志
		英語学	前田 雅子
	独文学	ドイツ近現代文学、ドイツ思想	小黒 康正
		ドイツ近代文学、ドイツ思想	田口 武史
	仏文学	フランス文学(19世紀)	高木 信宏
		フランス文学(20世紀)	宮崎 海子
	言語学	理論言語学、統語意味論	上山 あゆみ
		琉球語、日本語諸方言、言語類型論	下地 理則
		言語脳科学、神経言語学	太田 真理

出願方式	専門分野	教員名
情報管理学重視型	自然言語処理	富浦 洋一
	大学史、アーカイブズ学、日本近代思想史	藤岡 健太郎
	図書館情報学、研究データ管理、テキスト自動分類	石田 栄美
	図書館情報学	渡邊 由紀子
	大学史、アーカイブズ学、日本近現代史	赤司 友徳
	データベース、情報検索	清水 敏之
	アーカイブズ学、日本近世史	木土 博成
	情報通信	内林 俊洋
	言語学、人文情報学	中川 奈津子
	古文書・古記録、アーカイブズ学	越坂 裕太
	ラーニングアナリティクス、データ駆動型インタラクティブシステム	LIANG Changhao リアン・チャンハウ
	計量文体論、人文情報学、イギリス文学（19世紀）	藤田 郁（担当教員） システム情報科学研究所所属

教員からのメッセージ

日本近代史を専攻し、歴史資料を使う側だった私は、現在は大学文書館で資料を提供する側になりました。この立場の変化は、資料と人をつなげることの重要性や面白さがあると、私に大きな気づきをもたらしました。私にとってこの「つなぐ」という行為は、たとえば、何かを考え実践する人に適切な資料を提供すること、専門の異なる人に資料を提供しこれまでにない解釈や利用方法・研究テーマやイノベーションが生まれるきっかけを作ること、デジタル技術の発展とともに大きく変わった資料の保存や提供方法を背景として資料と人をどのようにつなぐか、といったことです。私は学生の皆さんとこのようなことを一緒に実践し、研究していきたいと考えています。

准教授 赤司 友徳(大学史、アーカイブズ学、日本近現代史)

私は19世紀イギリス詩の中でも特にAlfred Tennysonという詩人の作品に着目し、統計学や機械学習手法を援用した研究を行っていますが、根底には、「ことば」とそれを扱う人間、その認知に対する関心があります。詩に限った話ではないですが、人文学の研究対象は膨大な先行研究があり、また非常に奥深いものです。そのような研究対象にデジタルな、定量的研究手法を用いるのはまだまだ challenging な点もありますが、定量的研究と定性的研究の相互作用から得られる新しい知見、定量的・定性的研究それぞれの特性に関する示唆は、これからの人文学研究をより活発にするものと考えます。ここ人文情報連係学府で多くの方と活発に議論し、人文学研究をさらに発展させていけることを楽しみにしています。

講師 藤田 郁(計量文体論、人文情報学、イギリス文学)

令和9(2027)年度 修士課程学生募集

- 令和9(2027)年度の願書受付期間および試験期日の予定は以下の通りです。年間スケジュールは変更される可能性がありますので、最新情報は必ず本学府のホームページでご確認ください。
- 入学後に主指導教員として研究指導を希望する教員に対応する出願方式(「人文学重視型」か「情報管理学重視型」)を選択し、各出願方式に従って出願してください。

出願方式		出願期間	試験日	合格者発表
人文学重視型	第1期	2026年7月21日(火)～ 2026年7月31日(金)	2026年 8月27日(木)、28日(金)	2026年 9月9日(水)
	第2期	2026年12月1日(火)～ 2027年1月4日(月)	2027年 2月3日(水)、4日(木)	2027年 2月17日(水)
情報管理学重視型	第1期	2026年6月12日(金)～ 2026年6月18日(木)	2026年 7月11日(土)	2026年 8月7日(金)
	第2期(予定)	2026年9月11日(金)～ 2026年9月17日(木)	2026年 10月11日(日)	2026年 11月11日(水)
	第3期(予定)*	2026年12月4日(金)～ 2026年12月10日(木)	2027年 1月9日(土)	2027年 2月11日(木)

*情報管理学重視型第3期の実施の有無は第2期の出願状況により判断します。

● 授業料

入学料 282,000 円(予定)

授業料 267,900 円(半期)(予定)

535,800 円(年間)(予定)

(注) 上記の納付金額(入学料・授業料)は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

● 経済的支援

- ・本学が実施している経済的支援については、以下をご覧ください。

(<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/financialsupport>)

● 研究生制度

- ・学士号の取得者および取得見込者を対象に、研究生制度を設けています。詳細はホームページをご覧ください。

募集要項・願書書類は本学府ホームページで入手してください。

九州大学 大学院 KYUSHU UNIVERSITY

人文情報連係学府

Joint Graduate School of Digital Humanities

<https://dh.kyushu-u.ac.jp/>

[お問い合わせ先]

九州大学 人文社会科学系事務部学務課(人文担当)

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744(イースト1号館)

TEL・092-802-6475

お問い合わせフォーム <https://dh.kyushu-u.ac.jp/contact/>

